

アクションリサーチにおいて保健師の PD を支援する研究者の活動に関する分析

本研究の目的は、保健師の CPD を促進した 2 年間のアクションリサーチにおいて、研究者が保健師に対してどんなアクションを行っていたかについて分析することである。

アクションリサーチの対象は 6 地区の保健所保健師であり、研究方法は、保健師個人および会議の記録や研究者による観察メモの記述内容を、「どんな意図・目標で」「何を」「どうする」という単位で抽出し、研究者で分類・精練した。

抽出された 130 単位を分析した結果、研究者は、分類された 14 々の目標（既発表）の達成を目指して、以下の活動を行っていた。「何を」は、保健師の「意識・認識を(11)」「行動を起こすことを(21)」「行動した経過・結果を(15)」「結果への責任を(3)」「知識・技術・方法を(21)」「機会と場を(10)」、研究者の「考えや判断を(34)」、および互いの「経験とその結果を(14)」「資金を(1)」に分類された。「どうする」は次の 3 つ、「A 寄り添い強化する(47)」、「B 手引きし強化する(67)」、および「C 仕掛けて強化する(16)」に分類された。

今後この結果を基に、保健師の CPD を促進する教育方法について検討することが求められる。